

那覇港長期構想 概要版

令和4年4月
那覇港管理組合



しゅうしゅう

舟楫をもって万国の津梁となす、世界と沖縄・日本全国の人・物・文化を繋ぐ“みなと”

○ 那覇港長期構想の基本理念、目指す将来像、基本戦略（案）

【那覇港長期構想の基本理念】

しゅうしゅう
舟楫をもって万国の津梁となす、世界と沖縄・日本全国の人・物・文化を繋ぐ“みなと”

【那覇港の目指す将来像】

<物流・産業>

I アジアのダイナミズムを取り込み、自立型経済の構築を支える国際流通拠点となる“みなと”

<交流・賑わい>

II 世界と沖縄、琉球の歴史・文化を繋ぎ、観光の高付加価値化に導く“みなと”

<安全・安心>

III 沖縄の経済・生活の強靱化を支える“みなと”

<持続可能な開発>

IV 持続可能な発展を実現する“みなと”

【将来像実現に向けた基本戦略】

— 那覇港7つのチャレンジ —

戦略1 国内外航路及び空港の連携や流通加工機能等を活かした『アジアと日本を結ぶ中継拠点港』化による航路網の充実



戦略2 空港との連携や物流・交流・商流の相乗効果による臨空・臨港型産業の集積及び創貨



戦略3 多様なクルーズを迎え入れ、沖縄の魅力を発信する快適な玄関口の形成



戦略4 万国津梁のロマンを感じる、国内外の人・物・文化等の交流を生むウォーターフロント空間の形成



戦略5 平時及び災害時等の安全かつ安定的な港湾利用環境の確保



戦略6 経済活動と豊かな県民生活、自然環境が共生する良好な港湾環境の創出

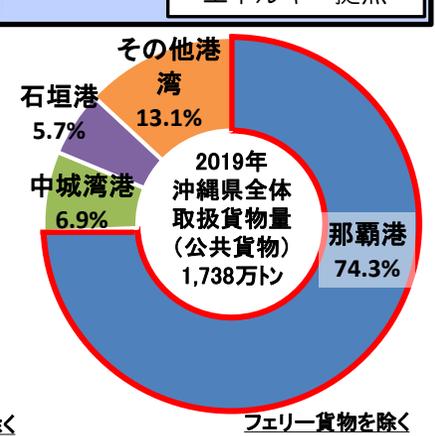
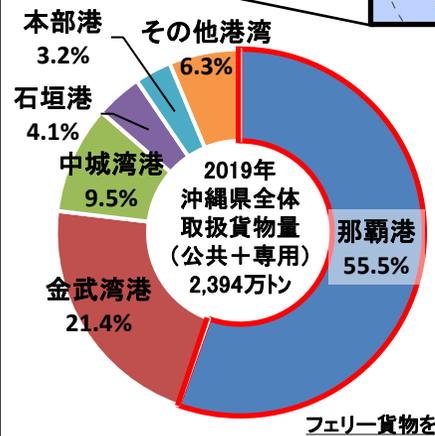
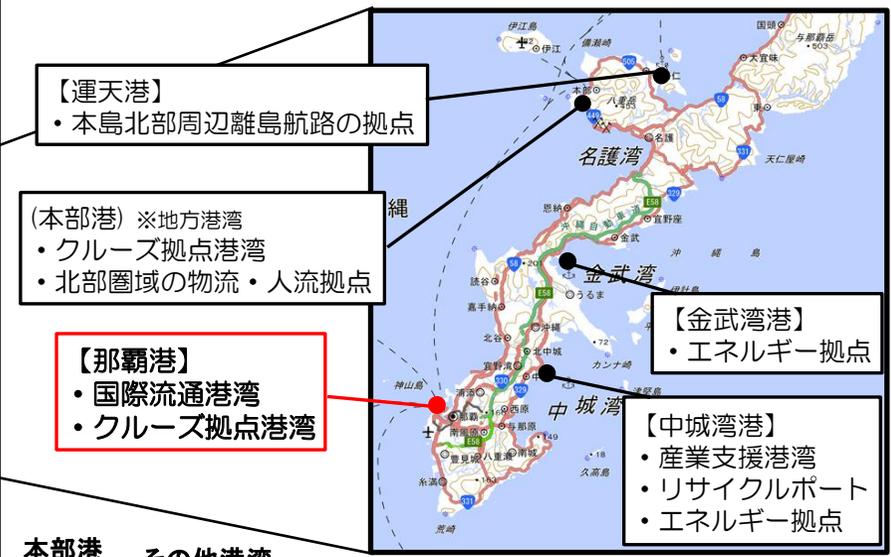
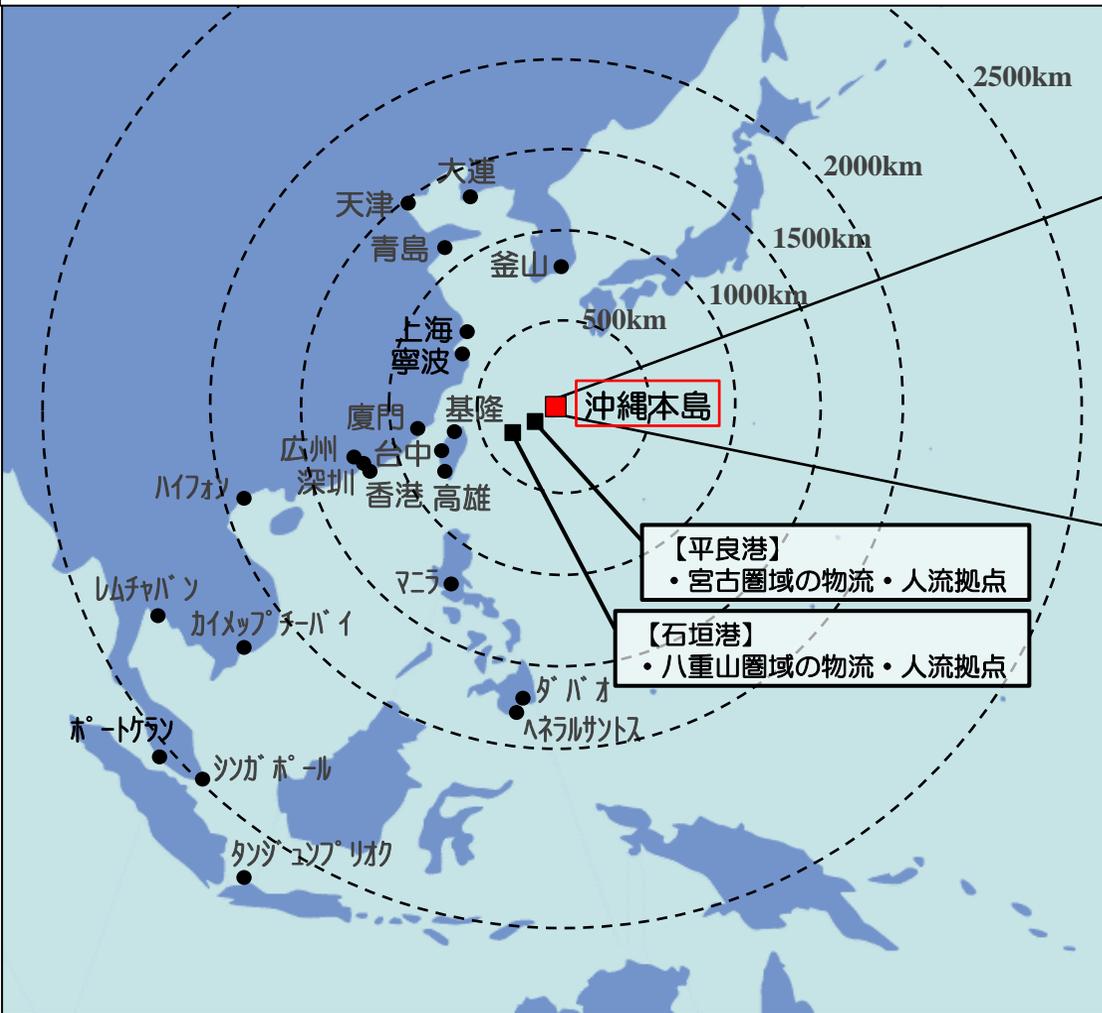


戦略7 人材と技術を育成する実証フィールドとしての港湾空間の活用



○ 那覇港の概要

- 現在、那覇港は、外貿7航路、内貿24航路(令和3年9月時点)を有する物流拠点、また離島航路やクルーズ船(令和元年寄港数全国1位)等の人流拠点として、県の経済社会活動を支えている。
- 将来は、那覇港の強み・特性であるアジアにおける地理的優位性や、近接する那覇空港との連携、流通加工等を行う物流センター、沖縄のリゾート地としての魅力等を活かし、アジア・沖縄・日本全国を繋ぎ、沖縄県のみならず日本全国及びアジアの成長に貢献する拠点港としての発展を目指す。



○ 那覇港の概要(歴史) ～万国津梁のロマン～

12世紀頃、琉球の各地で按司と呼ばれる首長が登場し、按司は城(グスク)を築き、覇権争いを繰り返しました。琉球と外国との交易は、13世紀に浦添城を拠点とする中山王・英祖が整備した泊港(現在の泊ふ頭)と、浦添市・宜野湾市を流れる牧港川河口にある牧港を利用して始まったとされている。

1372年には、明の皇帝の使者が琉球を訪れ、牧港を通じて中国との交易が始まったことで、多くの宝物や文化が伝わってきた。

■外国貿易の発展



15世紀に、尚巴志が琉球を統一して首里城に居城を移すとともに、旧那覇港(現在の那覇ふ頭)を開いたといわれています。15～16世紀にかけて、旧那覇港と泊港を玄関として、琉球王国はアジアの中継貿易拠点としての地位を確立しました。中国や朝鮮との交易だけでなく、博多・対馬・堺・坊之津等から多数の日本船が東南アジアの物産を買い求めるために琉球にやってきた。

首里城正殿に掛けられた「万国津梁之(ばんこくしんりょう)の鐘(かね)」には、「琉球国は南海の勝地(しょうち)にして三韓(さんかん)の秀を鍾(あつ)め、大明をもって輔車(ほしや)となし、日域(じちいき)をもって唇齒(しんし)となす。舟楫(しゅうしゅう)をもって万国の津梁となし、異産至宝は十方刹(じっぽうさつ)に充滿す」(=琉球国は南の海の良いところにあり、中国と日本の間にある蓬萊の島で、船で万国の津梁、いわば架け橋となって貿易を行い、国に宝物が満ちている)という句があり、当時の活況の様子がわかる。

■万国津梁の鐘 (沖縄県立博物館・美術館所蔵)



那覇港背後のまちは、国内外から様々な人・物・文化が流入し、交流の場として賑わうロマンに満ちた「みなとまち」だった。現在も、その時代の遺跡(防塁等)が残り、かつての繁栄と賑わいを今に伝えている。

■1422年頃の那覇港の絵図(沖縄県立博物館所蔵)



■三重城の防塁



■三重城ふるさと海岸の現況



■那覇ふ頭の様子



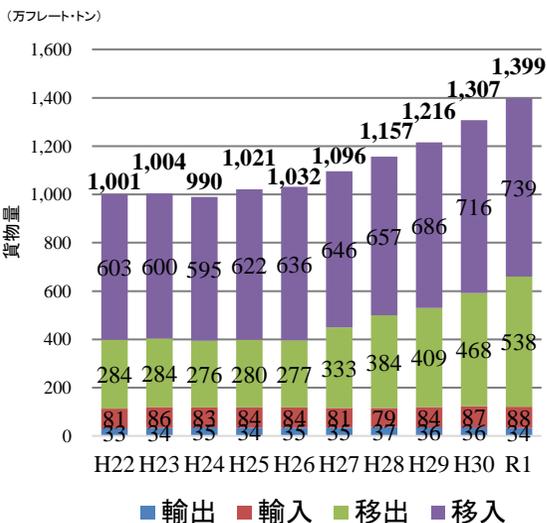
○ 那覇港の現状（物流、クルーズの状況）

<物 流>

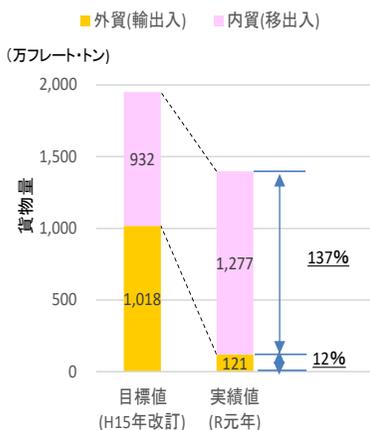
- 近年、沖縄県への入期観光客の増加等により、県内の物流量も大幅に増加。特に、食品・日用品・土産品、レンタカーの取扱いが増加しており、今後も観光振興による観光客数・滞在日数・消費額増に伴い物流量は増加するものと考えられる。
- 現行の港湾計画においては、欧米向け国際トランシップ貨物(※)の取扱いを想定したものの、これまでに実現せず、外貿貨物量は目標値の12%の状況。
- 一方、内貿貨物量は目標値の137%となり内貿ターミナルが逼迫している状況。
- 新たな長期構想では、那覇港を取り巻く社会経済情勢の変化等を踏まえて物流戦略の見直しが必要となる。(アジアネットワークと国内ネットワークを繋ぐ、アジアの中継拠点港としての展開を目指す。)

※国際トランシップ貨物: 国際航路において、途中の寄港地で別の本船に積み替えて輸送する貨物

■ 那覇港の取扱貨物量の推移



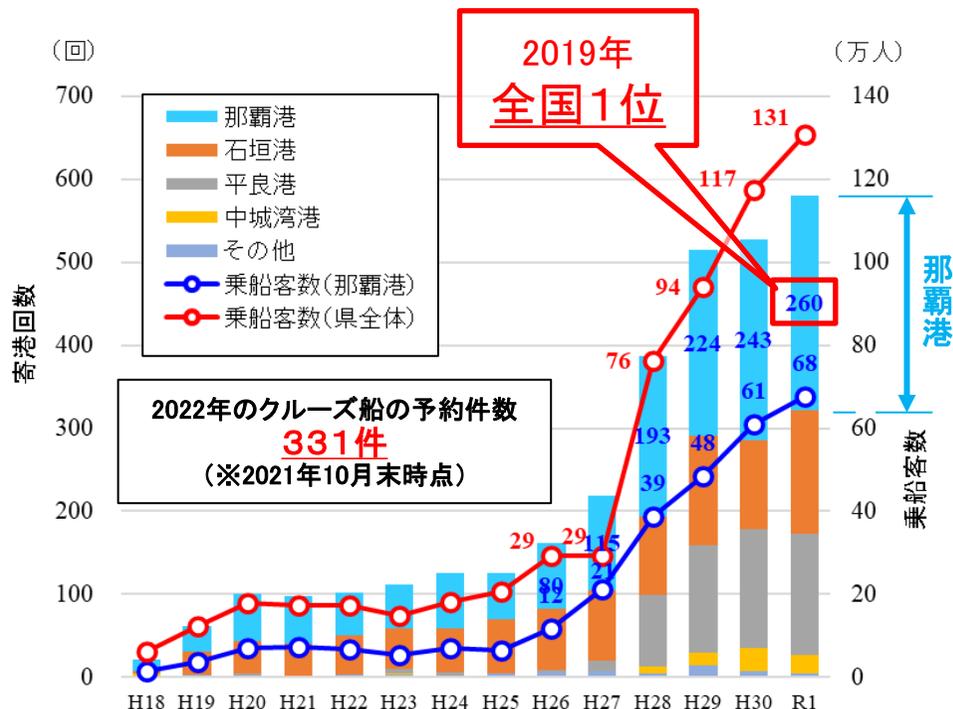
■ 現行港湾計画との比較



<クルーズ>

- 近年の沖縄県へのクルーズ船寄港ニーズの高まりを受け、那覇港へのクルーズ船寄港回数は増加傾向で推移し、令和元年には全国1位の寄港回数になった。
- 現在、新型コロナウイルスの影響によりクルーズ船寄港は止まっているが、令和4年の予約件数が331件(令和3年10月末時点)ある等、那覇港に対するクルーズ船社の関心は依然として高い。

■ クルーズ船の寄港回数と乗船客数

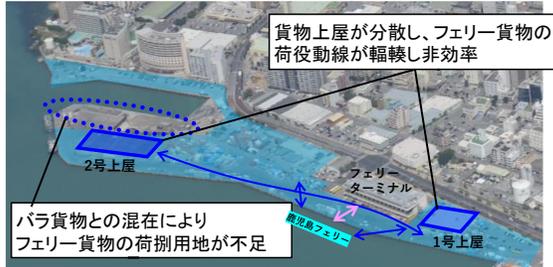


出典: 令和元年版観光要覧(沖縄県)

沖縄県内に寄港したクルーズ船の2019年実績(速報値)について、沖縄総合事務局

○ 那覇港の主な課題

■ 近年の船舶大型化や貨物量増加に対する、岸壁延長の不足、ふ頭の狭隘化



■ 臨港道路等の慢性的な渋滞



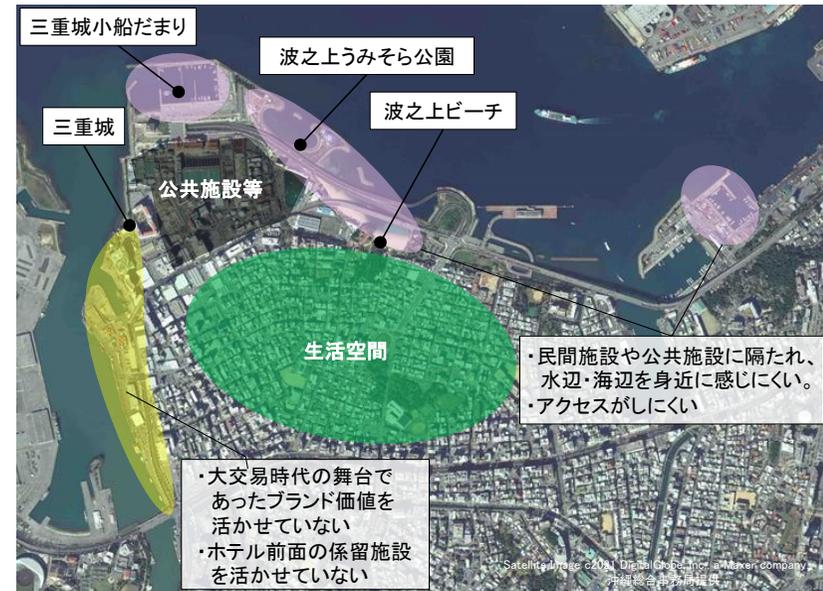
■ 港湾運営等に係る船舶の係留環境の不足



■ 整備後50年程度経過した施設の老朽化



■ 交流・賑わい機能の不足



○ 那覇港長期構想の検討の考え方

那覇港を取り巻く状況変化

- アジアのダイナミズム(急速な経済成長)
- 激甚化・頻発化する災害
- 新型コロナウイルス感染症に伴う社会経済の変化
- SDGs(持続可能な開発目標)への意識の高まり
- 港湾・海事分野におけるカーボンニュートラルの実現、グリーン化の推進(国土交通省)
- 港湾におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)を通じた抜本的な生産性の向上の推進(国土交通省)
- 港湾物流の担い手となる海運関係事業者の労働人口の減少・高齢化
- 臨港道路浦添線の開通等による県民・市民等の浦添西海岸への関心の高まり

上位計画等

- 国の港湾の中長期政策『PORT2030』
(平成30年7月国土交通省港湾局)
- 次期沖縄振興計画【新たな振興計画(素案)】
(令和3年5月沖縄県)

那覇港の課題

- 近年の船舶大型化や貨物量増加に対する、岸壁延長の不足、ふ頭の狭隘化
- 整備後50年程度経過した施設の老朽化
- 臨港道路等の慢性的な渋滞
- 物流戦略の見直しの必要性
- クルーズ戦略の見直しの必要性
- 交流・賑わい機能の不足
- 港湾運営等に係る船舶の係留環境の不足

那覇港の強み・特性

- 日本本土と東アジア及び東南アジアの中心に位置する地理的優位性
- 空港との近接性
- 沖縄のリゾート地としての魅力 等

港湾相互間の連携

- 中城湾港との機能分担・有機的連携 等

現状の課題を解消するとともに、那覇港の強み・特性を活かし、アジア・沖縄・日本を繋ぎ、沖縄県のみならず日本全国及びアジアの成長に貢献する拠点港としての発展を目指す。

那 覇 港 長 期 構 想 の 基 本 理 念

しゅうしゅう
舟楫をもって万国の津梁となす、
世界と沖縄・日本全国の人・物・文化を繋ぐ“みなと”

○ 那覇港による沖縄発展のイメージ (那覇港長期構想の基本理念)

将来像Ⅰ <物流・産業>

アジアのダイナミズムを取り込み自立型経済の構築を支える国際物流拠点となる“みなと”

基本戦略1

国内外航路及び空港の連携や流通加工機能等を活かした『アジアと日本を結ぶ中継拠点港』化による航路網の充実

基本戦略2

空港との連携や物流・交流・商流の相乗効果による臨空・臨港型産業の集積及び創貨

国内外航路網の充実や物流効率化等による県内企業の輸出環境向上等の国際競争力強化

<中城湾港との連携>

「産業支援港湾」として製造業等の生産機能の強化

安定的な機能発揮を支える

将来像Ⅲ <安全・安心>

沖縄の経済・生活の強靱化を支える“みなと”

基本戦略5

平時及び災害時等の安全かつ安定的な港湾利用環境の確保

平時・災害時における安定的な県民生活の確保、港湾機能の発揮

将来像Ⅱ <交流・賑わい>

世界と沖縄、琉球の歴史・文化を繋ぎ、観光の高付加価値化に導く“みなと”

基本戦略3

多様なクルーズを迎え入れ、沖縄の魅力を発信する快適な玄関口の形成

基本戦略4

万国津梁のロマンを感じる、国内外の人・物・文化等の交流を生むウォーターフロント空間の形成

クルーズ等の交流機能と物流・商流との連携による県産品の輸出促進、流通加工等を行う臨空・臨港型産業の集積

観光の高付加価値化に資する多様なクルーズ誘致(沖縄の玄関機能)、交流・賑わいを生む面的開発

持続的な機能発揮を支える

将来像Ⅳ <持続可能な開発>

持続可能な発展を実現する“みなと”

基本戦略6

経済活動と豊かな県民生活、自然環境が共生する良好な港湾環境の創出

基本戦略7

人材と技術を育成する実証フィールドとしての港湾空間の活用

将来に渡る安定的な港湾機能の発揮、人材育成への貢献

しゅうしゅう

舟楫をもって万国の津梁となす、世界と沖縄・日本全国の人・物・文化を繋ぐ“みなと”

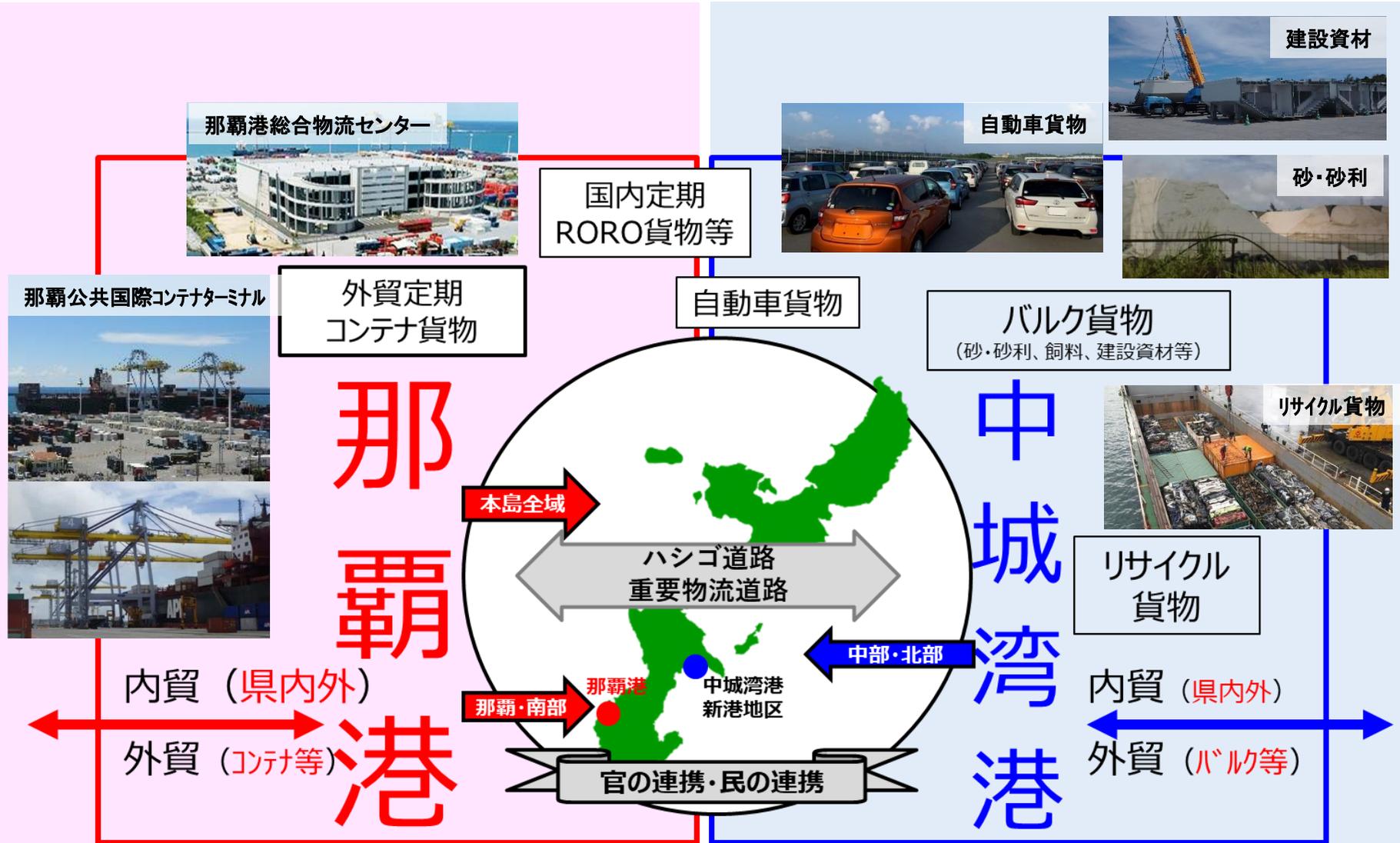
● 世界と沖縄・日本全国の人・物・文化を繋ぐ拠点港として発展

(沖縄が、人・モノ・資金・情報等が集積する新たな時代の新たな「万国津梁」へと発展)

● 中城湾港とも連携し、県産業の振興、生産性向上、県民所得向上に貢献

○ 那覇港と中城湾港の機能分担・有機的連携

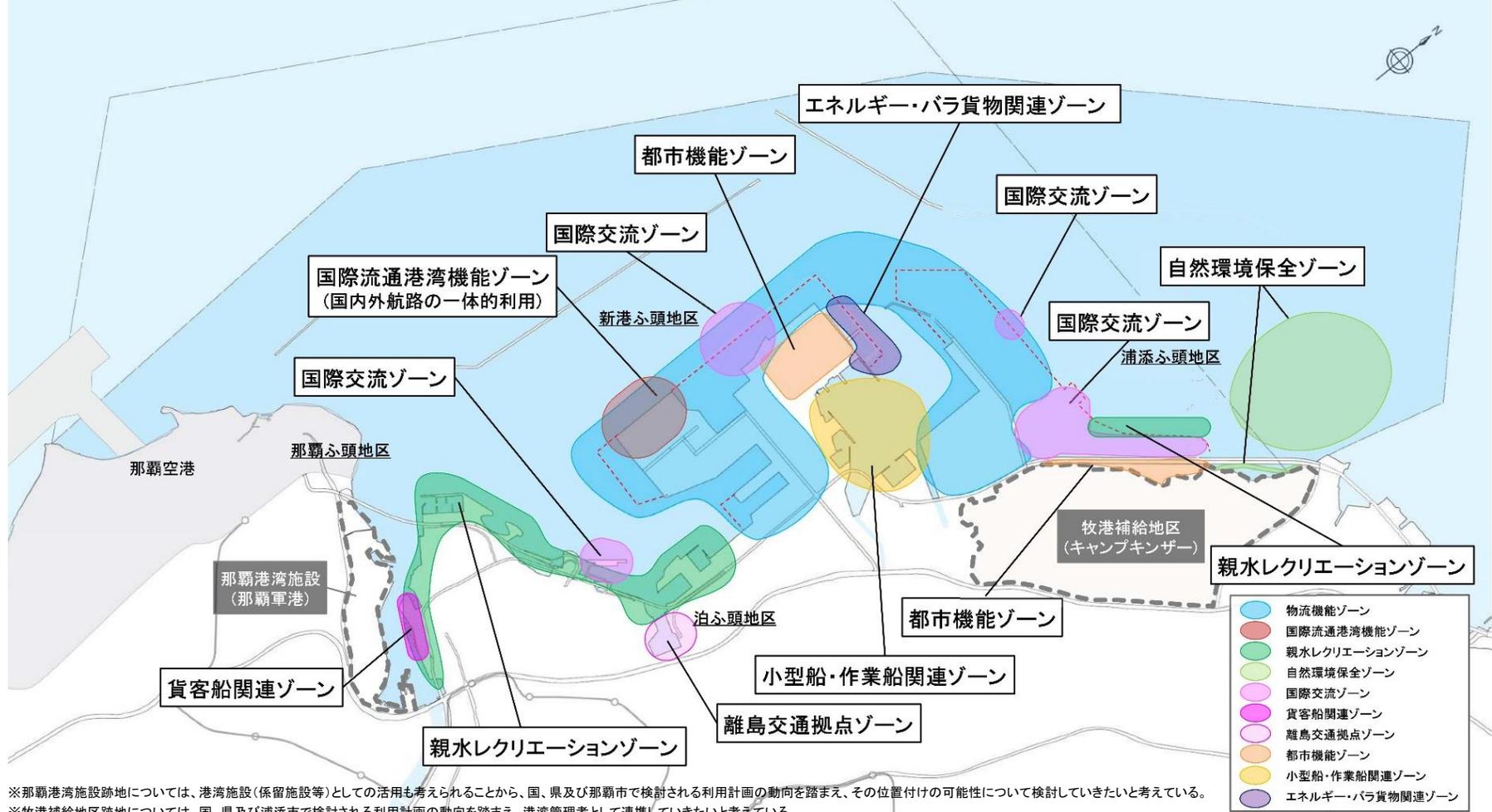
● 令和2年度にとりまとめられた中城湾港の長期構想も踏まえ、機能分担と有機的連携を図ることとし、那覇港は、沖縄の「国際流通港湾」として流通加工等の機能を含む国際物流拠点の形成を目指し、中城湾港は、「産業支援港湾」としてバルク貨物の取扱いや生産機能の強化を目指す。



想定される連携方法の例：共同ビジョン、広域連携、共同事業、一元管理等

○ 港湾空間利用計画(ゾーニング) (案)

- 物流機能の中心は、引き続き新港ふ頭と浦添ふ頭として、2つのふ頭の一体的利用を図る。
- 物流機能のうち燃料等の危険物を扱うゾーンは新港ふ頭の北側に配置。
- 離島航路の拠点は一続き泊ふ頭とし、那覇ふ頭は貨客船ゾーンとする。
- クルーズ船や大型クルーザー等の受入に対応する国際交流ゾーンは、泊ふ頭+新港ふ頭+浦添ふ頭で展開。
- 親水レクリエーションゾーンを、那覇ふ頭から新港ふ頭の入り口部分までの連続的な水際線に加え、浦添ふ頭に南北に長く配置。
- 浦添ふ頭北側に、自然環境保全ゾーンを配置。



※那覇港湾施設跡地については、港湾施設(係留施設等)としての活用も考えられることから、国、県及び那覇市で検討される利用計画の動向を踏まえ、その位置付けの可能性について検討していきたいと考えている。
 ※牧港補給地区跡地については、国、県及び浦添市で検討される利用計画の動向を踏まえ、港湾管理者として連携していきたいと考えている。
 ※令和3年5月19日の第27回那覇港湾施設移設に関する協議会において、代替施設と「浦添ふ頭地区における民港の形状案」との整合を図りつつ移設を進めるべく、防衛省において、国土交通省の協力を得ながら、代替施設を北側に位置付ける形で技術的な検討を加速化させ、米側との間で代替施設の形状案の具体化を図ることを確認している。

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組 I <物流・産業> (案)

将来像 I <物流・産業> アジアのダイナミズムを取り込み、自立型経済の構築を支える国際流通拠点となる“みなと”

基本戦略	主要施策	取組内容の例	短中期	長期
基本戦略1 国内外航路及び空港の連携や流通加工機能等を活かした『アジアと日本を結ぶ中継拠点港』化による航路網の充実	(1)国内外航路の接続や那覇空港とのシー・アンド・エア、航路網と物流センター等の一体的利用等、多様な輸送サービスの構築	①高規格・高効率コンテナターミナルの整備及び複合ターミナル化 ②国内外ROROターミナル・一般貨物船ターミナルの拡充・再編 ③連続直線バース環境の確保による各種貨物船の機動的運用 ④那覇港総合物流センターの拡充 ⑤一時保管(仮置きヤード)や、流通加工、配送機能(物流施設)等に係る保管施設用地、海上・陸上輸送の効率的な連結に必要な用地の拡充(シャーシの立体蔵置や空間の高度利用含む) ⑥コンテナターミナルと国内外RORO・一般貨物船ターミナルの円滑な接続が可能となる施設配置	○ ○ ○ ○ ○	○ ○
	(2)物流効率化や物流コスト低減等による航路拡充の促進	①船舶への陸電供給や荷役機械等のFC化等、環境に配慮した利便性の高い利用環境の構築 ②那覇港からの直接輸出入の促進による県内発着貨物の輸送効率化 ③国内各地の港湾や台湾等のアジア主要港と連携したネットワーク強化、輸送ルート転換促進、BCPルートとしての利用提案等による荷主の呼び込み ④トランスファークレーン等の荷役設備、貨物車両の搬出入やシャーシ位置管理等に係る物流システムの導入等による物流機能の高度化 ⑤AIやIoT等のICTを活用した港湾の建設・維持管理・運営サイクル全体のスマート化・強靱化を図る「沖縄型スマートポート」の形成	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	(3)港湾・空港へのアクセス強化	①新港ふ頭と浦添ふ頭の物流空間の一体的利用のためのふ頭間臨港道路の整備 ②那覇港と背後圏、那覇空港を円滑に繋ぐ陸上輸送網の整備 ③那覇空港との連携強化のための港内海上輸送ネットワークの検討 ④中城湾港との連携を強化するための両港間の陸上・海上輸送ネットワークの形成	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
基本戦略2 空港との連携や物流・交流・商流の相乗効果による臨空・臨港型産業の集積及び創貨	(1)流通加工等の付加価値の高い臨空・臨港型産業の集積促進	①那覇港総合物流センターの拡充をはじめとする、流通加工やコールドチェーン、再生可能エネルギーを活用した物流施設等やセントラルキッチン等の臨空・臨港型産業の集積促進に必要な用地の確保及び企業誘致 ②空港と港湾が連携したEコマース等の新たな物流ニーズへの対応 ③国内外航路の接続や保税状態での流通加工及び輸出入・移出入等を効率的に行うための、外内貿ふ頭と背後の物流施設等の円滑な接続が可能となる施設配置	○ ○ ○	○
	(2)県内事業者の海外展開や輸出拡大を支える物流環境の整備等	①県産の農水産品輸出拡大のため、ふ頭用地におけるリーファー電源の拡充 ②県産品の海上小口混載輸送による輸出促進 ③高付加価値製品を製造する企業等の生産拠点の形成を図る中城湾港との機能分担・有機的連携による創貨・集荷促進 ④クルーズ船寄港に合わせた船内飲食への県産品提供、クルーズターミナルや港湾緑地等における農水産品や工芸品等の県産品等の販売・宅配・データ収集を行うイベントの実施 ⑤ビジネス交流拠点の形成に向けて、県産品の販路拡大や全国特産品の流通拠点化のプラットフォーム構築を目指す商談機会の創出における海上輸送に関する協力・連携 ⑥県外・国外出荷のノウハウが不足する個別事業者に対する物流専門家による支援、国際物流拠点の形成に向けた人材の確保・育成における海上輸送に関する協力・連携	○ ○ ○ ○ ○ ○	○

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組 I <物流・産業> (案)

【将来像 I】 アジアのダイナミズムを取り込み、自立型経済の構築を支える国際流通拠点となる“みなと”

- ★ 戦略1 国内外航路及び空港の連携や流通加工機能等を活かした『アジアの中継拠点港』化による航路網の充実
- ★ 戦略2 空港との連携や物流・交流・商流の相乗効果による臨空・臨港型産業の集積及び創貨

●国内外海上輸送網や那覇港物流センター等の一体的利用、那覇空港とのシーアンドアエア等、多様な輸送サービスの構築

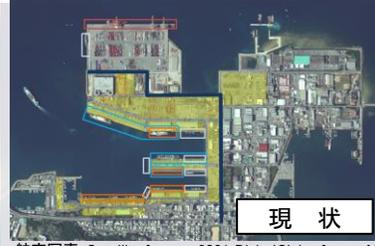


那覇空港と連携強化のための港内海上輸送ネットワークの検討



出典：横浜市HP

●コンテナ・RORO・一般貨物船ふ頭の拡充・再編



現状

※あくまでイメージであり、配置規模は調整中である



再編後

航空写真：Satellite Image ©2021 DigitalGlobe, Inc., a Maxar company. 沖縄総合事務局提供

トランスファークレーン等による港湾機能の高度化



出典：博多港ふ頭(株)HPより

リーファー電源の増設



写真：那覇港国際コンテナターミナル内

物流空間の一体的利用のためのふ頭間臨港道路の整備(橋梁等)

新港ふ頭地区

浦添ふ頭地区

牧港補給地区(キャンプキンザー)

那覇空港貨物ターミナル(株)

那覇ふ頭地区

那覇港湾施設(那覇軍港)

●那覇港総合物流センターの拡充等、流通加工等の物流産業の集積



出典：(株)那覇港総合物流センターHPより

●那覇港と背後圏、那覇空港を円滑に繋ぐ陸上輸送網の整備

若狭港町線の完成予想図



出典：那覇港湾・空港整備事務所HPより

●AIやIoT等のICTを活用した港湾の建設・維持管理・運営サイクル全体のスマート化・強靱化を図る「沖縄型スマートポート」の形成



「次世代高規格ユニットロードターミナル」のイメージ

航空写真：Satellite Image ©2021 DigitalGlobe, Inc., a Maxar company. 沖縄総合事務局提供

○【参考】新港ふ頭RORO船・一般貨物船ターミナルの再編イメージ

現状

荷捌用地不足のため、
 ◆新港ふ頭内の点在したスペースへの非効率な横持ち輸送が生じている。
 ◆貨物車両が路上に待機及び船内に貨物を長時間存置している(出港のための航海の準備が出来ない)。
 ◆保管用地も足りなくなり、貨物の搬出時間を計画的に行えず、周辺道路の渋滞時間を避ける運用が出来ない。

- : RORO船の利用
- : 一般貨物船の利用
- : 海保巡視船・タグボート等の貨物積卸しのない船の利用
- : 荷捌用地及び保管用地(野積場)
- : 臨港道路

※あくまでイメージであり、配置・規模は調整中



- ◆陸側の岸壁等の老朽化や狭隘化が特に深刻。
- ◆渋滞対策に必要な「若狭港町線」の整備に伴い、陸側の一部岸壁が将来利用困難。

再編後

○【参考】 多様な輸送サービスの構築(アジアの中継拠点港)のイメージ

【那覇空港の物流戦略】

沖縄国際物流ハブの新モデル



鹿兒島県「SHIP&AIR」での活用事例

鹿兒島県では、鹿兒島県産品の輸出拡大に向けた取組として、沖縄国際物流ハブを活用した海上輸送と航空輸送による新たな輸送スキームを、平成29年12月に構築しました。

鹿兒島県から沖縄県への輸送距離が短いという地理的優位性を活かした海上輸送ネットワークと那覇空港を基点としたアジア圏への航空輸送ネットワークを組み合わせることにより、リードタイムの短縮や輸送コストの削減を図り、スピーディーかつリーズナブルな輸送体系を実現しています。

この新たな輸送スキームの活用により、畜産物、水産物、農産物等の鹿兒島県産品の輸出拡大に取り組んでいます。

○「SHIP&AIR」輸送イメージ

出荷日 (N)		N + 1日		N + 2日	
出港	13:00	入港	8:00	到着	14:50
鹿兒島新港		沖繩那覇港		物流施設	
		搬入	15:00	出発	AM
				那覇空港	PM
				那覇空港	香港国際空港

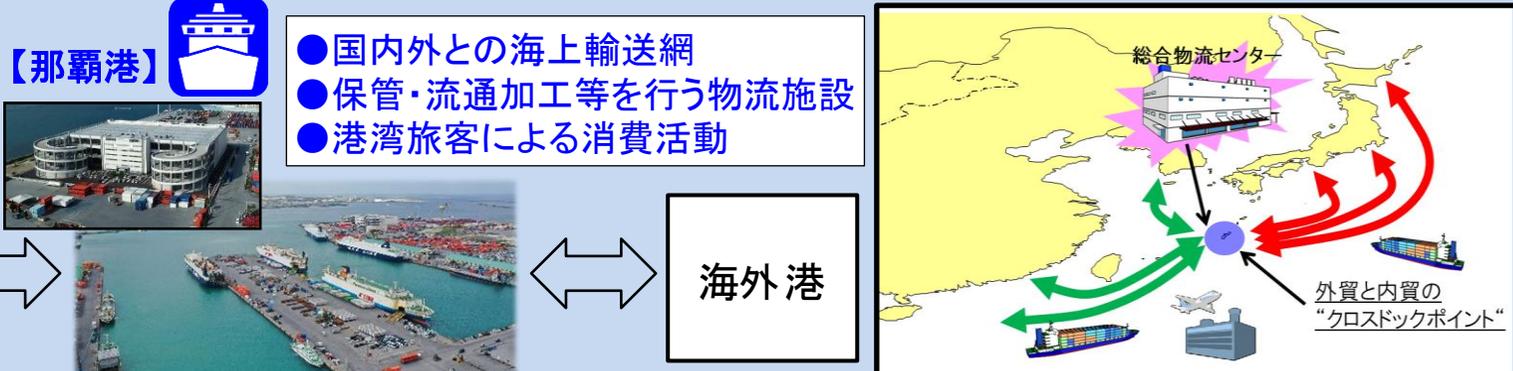
出典：沖縄国際物流ハブ/県商工労働部

【国内外航路の接続】

【シー・アンド・エア】：日本全国から船で集め、アジアへ航空機で輸出 等

【那覇港】

- 国内外との海上輸送網
- 保管・流通加工等を行う物流施設
- 港湾旅客による消費活動



国内港 ↔ 海外港

総合物流センター

外貿と内貿の“クロスドックポイント”

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅱ <交流・賑わい> (案)

将来像Ⅱ <交流・賑わい> 世界と沖縄、琉球の歴史・文化を繋ぎ、観光の高付加価値化に導く“みなと”

基本戦略	主要施策	取組内容の例	短中期	長期
基本戦略3 多様なクルーズを迎え入れ、沖縄の魅力を発信する快適な玄関口の形成	(1)国際クルーズ拠点の形成	①クルーズ船の大型化への対応、複数のクルーズ船用岸壁の確保 ②クルーズ船の拠点港化に向けたポートセールス ③官民連携によるクルーズターミナルの整備 ④クルーズターミナル及び周辺の利便性・快適性向上 ⑤クルーズターミナルにおける離島や県内各地の魅力を発信 ⑥クルーズ船寄港に合わせた船内飲食への県産品提供、クルーズターミナルや港湾緑地等における農水産品や工芸品等の県産品等の販売・宅配・データ収集を行うイベントの実施(再掲)	○ ○ ○ ○ ○ ○	○
	(2)観光の高付加価値化に資するフライアンドクルーズの誘致や大型クルーザー等の受入環境の整備	①フライアンドクルーズやラグジュアリー船、エクスペディション船、大型クルーザー等の多様なクルーズの誘致に向けたポートセールスや、沖縄県全体の持続可能なクルーズ振興に向けた港湾管理者間や関係機関との連携の推進 ②那覇クルーズターミナル(若狭)と宿泊施設が立地する背後市街地へのプロムナードの快適性向上 ③那覇空港や那覇クルーズターミナル(若狭)と併設した周辺離島等への旅客船バースの整備検討 ④大型クルーザー等に対応したマリーナの整備 ⑤マリーナ及び周辺の利便性・快適性向上 ⑥クラブハウス等における離島や県内各地の魅力を発信 ⑦奄美地域・沖縄島北部との人流促進や周辺離島とのアイランドホッピング等に対応した旅客船の受入環境及び円滑な利用環境(予約システム等)の確保等、広域観光の振興に向けた民間企業等との連携強化	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	(3)観光二次交通の利便性向上	①都市部と第2クルーズバースを繋ぐ周辺道路に関するハード・ソフト両面の渋滞対策の検討 ②観光拠点と港湾・空港を自動運行する新たなモビリティの活用への対応やICT技術を活用したシームレスな乗り継ぎ環境確保、レンタカー貸渡拠点の確保等の推進 ③第2クルーズバース旅客に対するバース周辺施設(卸売市場等)への滞在促進 ④シェアサイクル等の多様な移動手段の利用促進による渋滞緩和 ⑤公共交通網の拡充に関する関係機関との検討	○ ○ ○ ○ ○	○
基本戦略4 万国津梁のロマンを感じる、国内外の人・物・文化等の交流を生むウォーターフロント空間の形成	(1)基地跡地開発や周辺離島との連携を活かした多彩で高品質な交流・賑わい拠点の創出	①浦添ふ頭地区における、浦添の自然環境を活かすとともに、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ビジネス拠点の形成(大型クルーザー等に対応したマリーナ、ビーチ等、ラグジュアリーホテル等用地) ②那覇ふ頭地区の那覇港の歴史等を活かし、那覇港湾施設跡地計画の動向等と連携した交流・賑わい空間への再開発の検討(那覇港管理組合庁舎の建替移転の検討、貨客船ターミナルの利便性・快適性の向上を含む) ③泊ふ頭からの危険物取扱移転に合わせた、離島の魅力発信を含む交流・賑わい空間への再開発 ④新港ふ頭小型船溜まり周辺の港・船の景観等を活かした交流・賑わい空間への再開発	○ ○ ○ ○	○ ○
	(2)地域の歴史・文化等を活かしたウォーターフロント空間の創出や周遊性向上等による、地域のブランド価値向上と県民・観光客の満足度向上・再来訪促進	①「みなとまちづくりマスタープラン」の改訂・推進 ②那覇ふ頭の明治橋周辺、三重城小型船溜まり周辺の臨港道路用地、若狭海浜緑地等の活用(キッチンカー、マルシェ等)による賑わい創出 ③散策して楽しいウォーターフロント空間の面的な展開に向けた、周辺地域における那覇市・浦添市のまちづくりや民間企業の取組等との連携強化(周辺地域の公園・街路等と連携した良好な景観創出、文化・音楽・スポーツ等の多様なイベントとの連携、コミュニケーションツール等を活用した案内等) ④みなとまちづくりの拠点を繋ぐ水際線のプロムナードの整備 ⑤水辺空間を繋ぐ港内海上交通ネットワークの検討 ⑥空路・航路・陸上交通の連続性の確保によるシームレス化に向けた、港内海上交通を活用したICT技術の研究・実装の検討 ⑦物流空間と交流・賑わい空間、最新と歴史・文化等が調和・融合した景観の形成	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	(3)海洋レクリエーション環境の整備	①小型船溜まりや港湾緑地、海浜等におけるアメニティ機能の強化、親水性の向上 ②民間活力の導入によるサービス水準の向上、導入エリアの拡大の推進 ③安全確保を前提とした釣り開放エリアの指定 ④イノー等における海洋教育の活用	○ ○ ○ ○	○

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅱ <交流・賑わい> (案)

【将来像Ⅱ】 世界と沖縄、琉球の歴史を繋ぎ、観光の高付加価値化に導く“みなと”

★ 戦略3 多様なクルーズを迎え入れ、沖縄の魅力を発信する快適な玄関口の形成

★ 戦略4 万国津梁のロマンを感じる、国内外の人・物・文化等の交流を生むウォーターフロント空間の形成

● 那覇港湾施設跡地計画の動向等と連携した、那覇ふ頭地区の再開発の検討(イメージ:今後詳細検討)

観光船の利用

那覇港の歴史を支えた倉庫群の景観を活かした賑わいづくり

NPA庁舎の建替/移転

フェリー

フェリー貨物荷捌き地

港・船の景観を臨む水辺空間を活かした賑わいづくり、観光船の利用



● 海洋レクリエーション環境の整備、サービス向上



● クルーズ船寄港に合わせた船内飲食への県産品提供、クルーズターミナルや港湾緑地等における農水産品や工芸品等の県産品等の販売・宅配・データ収集を行うイベントの実施

- 国際クルーズ受入環境の整備
(那覇クルーズターミナル(若狭):小中型
第2クルーズバース(新港ふ頭):中大型
浦添ふ頭:小型)
- クルーズターミナル及び周辺の
利便性・快適性向上



● 地域の歴史・文化等を活かしたウォーターフロント空間



● 浦添の自然環境を活かし、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ビジネス拠点の形成(イメージ:今後詳細検討)

● 大型クルーザー等に対応したマリーナの整備



新みなとまちづくり宣言「新しいみなとまちづくり」(R1.5 新みなとまちづくり研究会)資料より

● みなとまちづくりの拠点を繋ぐ水際線のプロムナードの整備

● 水辺空間を繋ぐ港内海上交通ネットワークの検討

新港ふ頭地区

浦添ふ頭地区

牧港補給地区
(キャンプギンザ)

● 泊ふ頭からの危険物取扱移転に合わせた再開発(イメージ:今後詳細検討)



航空写真: Satellite Image ©2021 DigitalGlobe, Inc., a Maxar company. 沖縄総合事務局提供

● 新港ふ頭の小型船溜まり周辺の再開発(イメージ:今後詳細検討)



航空写真: Satellite Image ©2021 DigitalGlobe, Inc., a Maxar company. 沖縄総合事務局提供

○【参考】フライ&クルーズの誘致、大型クルーザー等の誘致で期待される効果



- フライ&クルーズ(クルーズツアーと発着港までの飛行機での移動を組み合わせた旅行形態)は、クルーズ乗船前後に背後地域での宿泊を伴う可能性が高い。
- このため、背後地域での観光消費額の向上が期待される。
- ポートセールスとともに、クルーズ岸壁と宿泊施設が立地する背後市街地を繋ぐプロムナード等の快適性向上に取り組む。

- 沖縄圏域各地に、大型クルーザーが寄港しており、浦添ふ頭への寄港の可能性も高い。(船浮港(西表島)、竹富東港(竹富島)、安護の浦港(座間味島)といった小規模離島にも寄港している。)
- 特にスーパーヨット(外国人富裕層などが個人所有する全長80フィート以上(24m以上)の大型クルーザー)は、滞在期間中の消費が多い傾向にあり、背後市街地において高い経済効果が期待される。
- また、船舶メンテナンス等、造船所等における新規需要の獲得も期待される。

【スーパーヨットの経済効果の事例(県外含む)】

来訪年	全長	滞在期間	国内支出実績
2013	113.14m	17日	¥ 27,500,000
	26.26m	10日	¥ 5,700,000
2014	40.22m	10日	¥ 15,230,000
	44.94m	10日	¥17,525,000
2015	54.45m	3日	¥ 3,428,360
	91.50m	30日	¥ 45,000,000
	27.00m	10日	¥ 2,500,000
2016	54.00m	3日	¥ 12,000,000
	54.00m	22日	¥ 25,000,000

<国内での主な支出項目>
 ・地元名産品の購入
 ・ゲストやクルーの食料調達
 ・旅館、ホテルの宿泊
 ・観光
 ・給油
 ・港湾使用料、水道・電気料
 ・船、船用品のメンテナンス
 ・空港、ビジネスジェットの活用

出典：第1回中城湾港長期構想検討委員会資料より

【沖縄県におけるスーパーヨット寄港実績】

那覇港 4隻	中城湾港 12隻
平良港 2隻	石垣港 9隻

出典：沖縄総合事務局とりまとめ
 注意：集計期間は2016年～2021年8月まで



写真：与那原マリナーHP

出典：第1回中城湾港長期構想検討委員会資料より

○【参考】クルーズ船への地元食材の提供事例

- ゲンティン香港傘下のドリームクルーズ社とJAおきなわ及びレオスポ(株)は2018年4月、ワールドドリーム船内で「おきなわ和牛」をはじめとする沖縄食材の販売契約に関する覚書を締結。同年8月にはスタークルーズ社の3隻にも提供することに合意。
- クルーズ船寄港は観光分野だけでなく県産品の消費拡大や生産者の所得向上等、農林水産分野の振興にも大きく貢献。

■ 主な県産品やイベントの船内イベントの様子



■ クルーズ船への販売実績(2018年4月～2019年3月)

食材	数量
おきなわ和牛	9トン
あぐー豚肉	3.2トン
黒糖	160ケース
青果物	7トン
加工品 (飲料・菓子類)	3,000ケース

■ 農産畜産物の海外向け販売額(クルーズ船内での消費を含む) (2018年4月～2018年10月末)

食材	販売額
畜産物	4,438万円
加工品	681万円
青果品	401万円
販売額	5,520万円

※上下表：沖縄タイムス、琉球新報にて報道(2018年11月20日)より

出典：「令和3年度 港湾計画基礎コース」研修資料(国土交通省 総合国土技術政策総合研究所)より那覇港管理組合作成

注意：上記資料等はJAおきなわに関するものである。

- ・船内レストランにおいて「おきなわ和牛・あぐー豚肉」をはじめとする沖縄食材を提供。
- ・船内売店やイベントブースでの販売は、加工品(シークワサー飲料・沖縄産黒糖など)となります。

○【参考】 みなとまちづくりから背後地域への波及効果イメージ (那覇市・浦添市との連携)

(那覇ふ頭地区～泊ふ頭地区)



アメニティ機能の強化

クルーズ船寄港に合わせたイベントの実施

泊漁港とも連携した新港ふ頭の小型船溜まり周辺の再開発

危険物取扱移転に合わせた、離島の魅力発信を含む憩い空間への再開発

港・船の景観を臨む水辺空間を活かした賑わいづくり、観光船の利用

自然環境等を活かした観光・ビジネス拠点の形成

- ◆高付加価値な都市型リゾートの形成(県内外の需要を取り込むマリーナ及び高品質なクラブハウス・ホテル等)
- ◆市民・県民にとっての快適環境都市の玄関口及びレクリエーションの場の創出(親水空間、クルージング文化普及等)

(浦添ふ頭地区)



牧港補給地区
(キャンプキンザー)

➡: 貴重な水際線を有する港湾空間を活かした、港湾を核とした地域の再生・活性化、新たな地域経済循環の促進

○: 『那覇港みなとまちづくりマスタープラン』でウォーターフロントに相応しいまちづくりが望まれるとされたエリア
※『那覇港みなとまちづくりマスタープラン』は計画改訂を踏まえて見直し予定

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅲ <安全・安心> (案)

将来像Ⅲ <安全・安心> 沖縄の経済・生活の強靱化を支える“みなと”				
基本戦略	主要施策	取組内容の例	短中期	長期
基本戦略5 平時及び災害時等の安全かつ安定的な港湾利用環境の確保	(1)社会経済活動の安全性・継続性を支える防災・減災対策等の推進	①地震・津波・高潮等の災害時の緊急物資輸送等の機能を確保する耐震強化岸壁等の整備(新規RORO船岸壁等)、海域・陸域の一連の輸送ルートの構築 ②災害時等の海上コンテナ・RORO等の幹線貨物輸送を確保する施設強靱化や国内外物流ネットワーク強化 ③臨港道路の液状化対策、無電柱化や橋梁の耐震補強等、防波堤の粘り強い化等、港湾施設・海岸保全施設等の防災機能強化 ④防災計画に基づくハザードマップの整備・更新、避難機能を備えた施設の整備、避難訓練の実施 ⑤関係企業等と連携した港湾BCPに基づく継続的な訓練の実施・見直し ⑥油流出事故等発生時の官民連携した早期対応体制の確保 ⑦大規模災害時等の廃棄物処理にも対応できる海面最終処分場の確保	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○
	(2)物流と人流の分離	①都市部と第2クルーズバースを繋ぐ周辺道路に関するハード・ソフト両面の渋滞対策の検討(再掲) ②新港ふ頭・浦添ふ頭内の臨港道路の再配置 ③新港ふ頭と浦添ふ頭の物流空間の一体的利用のためのふ頭間臨港道路の整備(再掲)	○ ○	○
	(3)離島地域の定住環境を支える離島航路の安定運航の維持	①離島航路に係るふ頭の荷捌き地の拡張 ②離島航路に係るふ頭の物流・人流の動線分離 ③離島航路に係るふ頭の旅客の利便性・快適性の向上 ④離島航路ターミナル等における離島の魅力の発信	○ ○ ○ ○	○
	(4)安全・安心な港湾利用を支える港湾施設の管理・運営	①港湾施設・海岸保全施設等の戦略的な維持管理、ふ頭再編による老朽化施設の廃止・利用転換等のストックマネジメントの推進 ②港湾の水際対策(SOLAS、CIQ、各種感染症、特定外来生物) ③港内の船舶航行状況に応じたポトラジオの導入の検討 ④官民が連携した放置艇・放置車両等の撤去・防止、路上駐車 of 解消 ⑤利用船舶の需要増加や大型化等による狭隘化に対応する小型船溜まりの拡張 ⑥立体駐車場の確保及び適切な利用 ⑦港湾の開発・運営等の安定的実施に必要な、作業船やタグボート等の係留環境整備 ⑧物流空間への一般車両等の立入規制	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○
	(5)領海保全の支援	①領海保全活動の安定的実施に必要な、巡視船の係留環境の確保	○	

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅲ <安全・安心> (案)

【将来像Ⅲ】 沖縄の経済・生活の強靱化を支える“みなと”

★ 戦略5 平時及び災害時等の安全かつ安定的な港湾利用環境の確保

- 災害時の緊急物資輸送等の機能を確保する耐震強化岸壁等の整備(新規RORO船岸壁等)
- 防災計画に基づくハザードマップの整備・更新、避難機能を備えた施設の整備、避難訓練の実施



港を利用した緊急物資輸送の様子
(釜石港 H23年3月)

R元年4月 総合物流センターが
津波緊急一時避難施設協定



出典: 那覇市HPより



出典: (株)那覇港総合物流センターHPより

東北地方の港湾機能継続計画(BCP)資料より

- 港内の船舶航行状況に応じたポータラジオの導入の検討



- 危険物取扱施設の
沖合移転

- 荷捌き地の拡張、旅客の利便性・快適性の向上等、
離島航路の安定運航の維持



※泊ふ頭の岸壁背後における物流車両の駐車

- 領海保全活動の安定的実施に必要な、巡視船の係留環境の確保

- ふ頭間臨港道路の整備(橋梁等)による港湾
車両と一般車両の分離

- 新港ふ頭・浦添ふ頭内の臨港道路の再配置による物流と人流の分離



浦添ふ頭 輸送能力の向上の検討

- 主要臨港道路における渋滞対策の実施



港湾1号線(泊大橋付近)の渋滞の様子

提供: 那覇港湾・空港整備事務所

- 官民が連携した放置艇・放置車両等の撤去・防止、路上駐車の解消
- 港湾の開発・運営等の安定的実施に必要な、作業船やタグボート等の係留環境整備



タグボート係留状況(参考: 新港ふ頭)



立体駐車場の例(参考: 那覇ふ頭)

航空写真: Satellite Image, ©2021 DigitalGlobe, Inc. a Maxar company 沖縄総合事務局提供

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅳ <持続可能な開発> (案)

将来像Ⅳ<持続可能な開発> 持続可能な発展を実現する“みなと”				
基本戦略	主要施策	取組内容の例	短中期	長期
基本戦略6 経済活動と豊かな 県民生活、自然環 境が共生する良好 な港湾環境の創出	(1)自然環境の保全、再生、創出	①「自然的環境を保全する区域」の設定、海洋教育等への活用 ②自然環境・景観に配慮した港湾形状・構造・工法の導入 ③港湾工事に伴う、防波堤背後等へのサンゴの移植 ④護岸等の緩傾斜化・親水化、緑地の整備等による良好な環境の創出、みなとへのパブリックアクセスの向上 ⑤住民参加型のみなとまちの維持管理体制の構築	○ ○ ○ ○ ○	
	(2)新エネルギーの活用及び港湾活動の脱炭素化の推進 (カーボンニュートラルポート(CNP)の形成)	①中城湾港との機能分担・連携による貨物流動の分散、移動距離の最適化 ②「CNP形成計画」の策定と、当該計画に沿った取組推進による脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化(再生可能エネルギーを活用した物流施設、物流・人流に係る船舶への陸電供給、荷役機械等のFC化、バイオディーゼル燃料等の供給環境確保等) ③水素等の新エネルギー利用について、東海岸等の県内エネルギー拠点の取組と連携し、新港ふ頭危険物取扱施設用地等で対応 ④民間企業における新たな技術開発の実証等との連携や、那覇港の取組成果の県内他港への展開への協力	○ ○ ○ ○	○ ○
	(3)循環型社会の構築を支える港湾環境整備	①那覇港の流通機能を活かした、リサイクルポートである中城湾港との機能分担・有機的連携による再利用商品等の創貨促進 ②中城湾港との連携を強化するための両港間の陸上・海上輸送ネットワークの形成(再掲) ③廃棄物の適正な管理・処理を行うための海面最終処分場の確保	○ ○ ○	○ ○
	(4)港湾における豊かな労働・生活環境の創出	①「みなとまちづくりマスタープラン」の改訂・推進(再掲) ②港湾労働者、地域住民等に配慮した緑地、広場、休憩所等の確保 ③上屋再編に合わせた事務所・店舗等を併設した複合施設化の整備検討 ④AIやIoT等のICTを活用した港湾の建設・維持管理・運営サイクル全体のスマート化・強靱化を図る「沖縄型スマートポート」の形成(再掲)	○ ○ ○ ○	○
	(5)港湾の持続可能な開発・利用・保全を行う体制確保	①民間活力の導入による持続可能な管理運営体制の確保 ②産官学の協力による児童・学生等向けの那覇港見学会の開催等による、港湾・海事分野の教育及び人材育成・確保の推進 ③賑わい空間やクルーズ寄港時以外におけるクルーズターミナル等を活用した那覇港のみなとまちづくりや、将来ビジョン等に係る学習や議論の場の創出	○ ○ ○	
基本戦略7 人材と技術を育成す る実証フィールドとし ての港湾空間の活 用	(1)研究開発成果や革新技术を試す実証フィールドとしての港湾空間の活用	①物流センターや新規コンテナ・ROROターミナル、マリーナ、港湾空域(水域)等の一部空間を、高専・大学・スタートアップ企業等による技術開発の実証フィールドとして利用提供 ②実証成果の「沖縄型スマートポート」形成に係る取組への還元 ③賑わい空間やクルーズ寄港時以外におけるクルーズターミナル等を活用した、異文化理解・国際理解の促進に係るイベントや、沖縄の歴史・文化の学習の場等への空間提供 ④クルーズ寄港時の学生等によるおもてなし活動を通じた国際交流及び国際理解教育の推進	○ ○ ○ ○	○ ○

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅳ <持続可能な開発> (案)

【将来像Ⅳ】 持続可能な発展を実現する“みなと”

- ★ 戦略6 経済活動と水辺に親しむ豊かな県民生活、自然環境が共生する良好な港湾環境の創出
- ★ 戦略7 人材と技術を育成する実証フィールドとしての港湾空間の活用

- 港湾労働者、地域住民等に配慮した緑地、広場、休憩所等の確保
- AIやIoT等のICTを活用した港湾の建設・維持管理・運営サイクル全体のスマート化・強靱化を図る「沖縄型スマートポート」の形成



参考：名古屋港富浜緑地

出典：(公財)名古屋港緑地保全協会HPより



「次世代高規格ユニットロードターミナル」のイメージ

参考：港湾の中長期政策「PORT2030」
(H30年7月 国土交通省港湾局)より

- 研究開発成果や革新技術を試す実証フィールドとしての港湾空間の活用

- 自然環境・景観に配慮した港湾の形状
- 「自然環境を保全する区域」の設定、海洋教育等での活用



カーミージーでの自然観察会の様子

出典：浦添市HPより

- 異文化理解・国際理解の促進に係るイベントや、沖縄の歴史・文化の学習の場等への港湾施設の活用
- 産官学の協力による学生向け的那覇港見学会の開催等による、港湾・海事分野の教育及び人材育成・確保の推進

参考：三重城歴史学習の様子



出典：那覇港湾・空港整備事務所HPより

新港ふ頭地区

浦添ふ頭地区

牧港補給地区
(キャンピングゾーン)

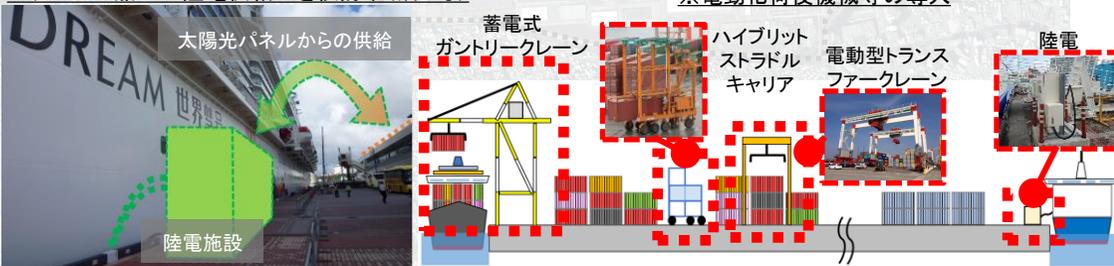
那覇ふ頭地区

泊ふ頭地区

- 新エネルギーの活用及び港湾活動の脱炭素化の推進(カーボンニュートラルポートの形成)

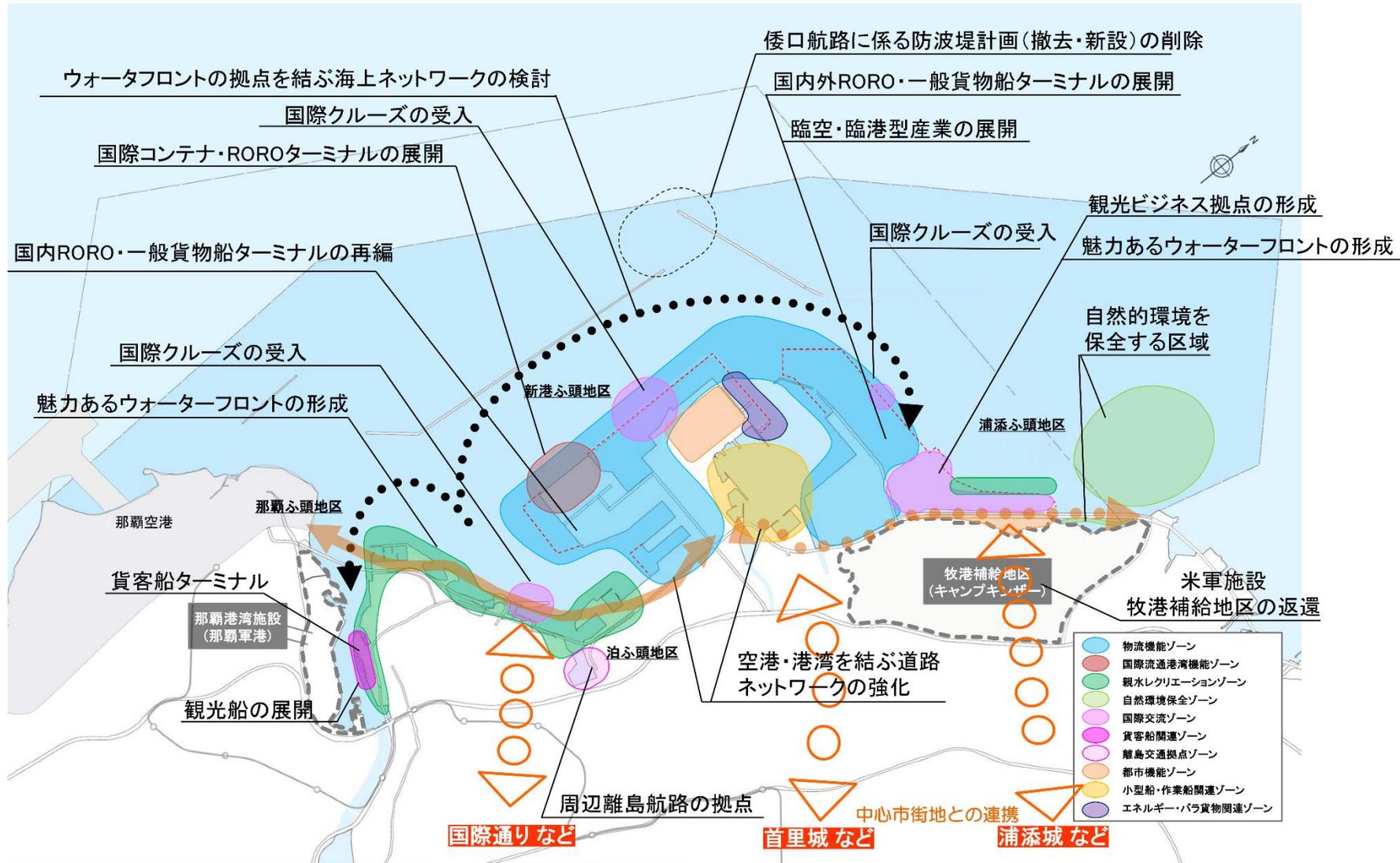
※クルーズ船への陸電供給のを検討中(泊8号)

※電動化荷役機械等の導入



○ 施設配置イメージ (案)

■ 施設配置(全地区)



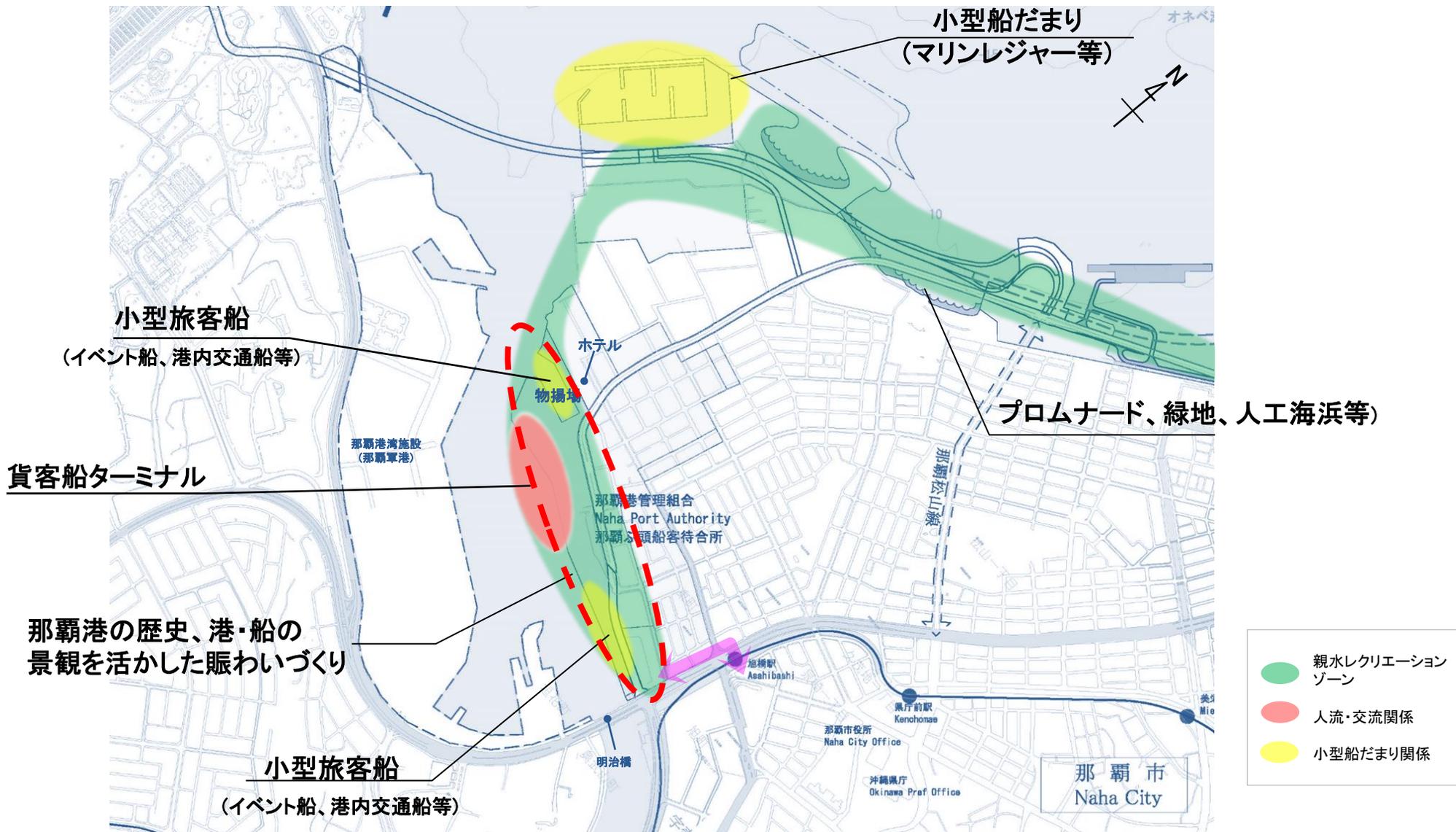
※那覇港湾施設跡地については、港湾施設(係留施設等)としての活用も考えられることから、国、県及び那覇市で検討される利用計画の動向を踏まえ、その位置付けの可能性について検討していきたいと考えている。

※牧港補給地区跡地については、国、県及び浦添市で検討される利用計画の動向を踏まえ、港湾管理者として連携していきたいと考えている。

※令和3年5月19日の第27回那覇港湾施設移設に関する協議会において、代替施設と「浦添ふ頭地区における民港の形状案」との整合を図りつつ移設を進めるべく、防衛省において、国土交通省の協力を得ながら、代替施設を北側に位置付ける形で技術的な検討を加速化させ、米側との間で代替施設の形状案の具体化を図ることを確認している。

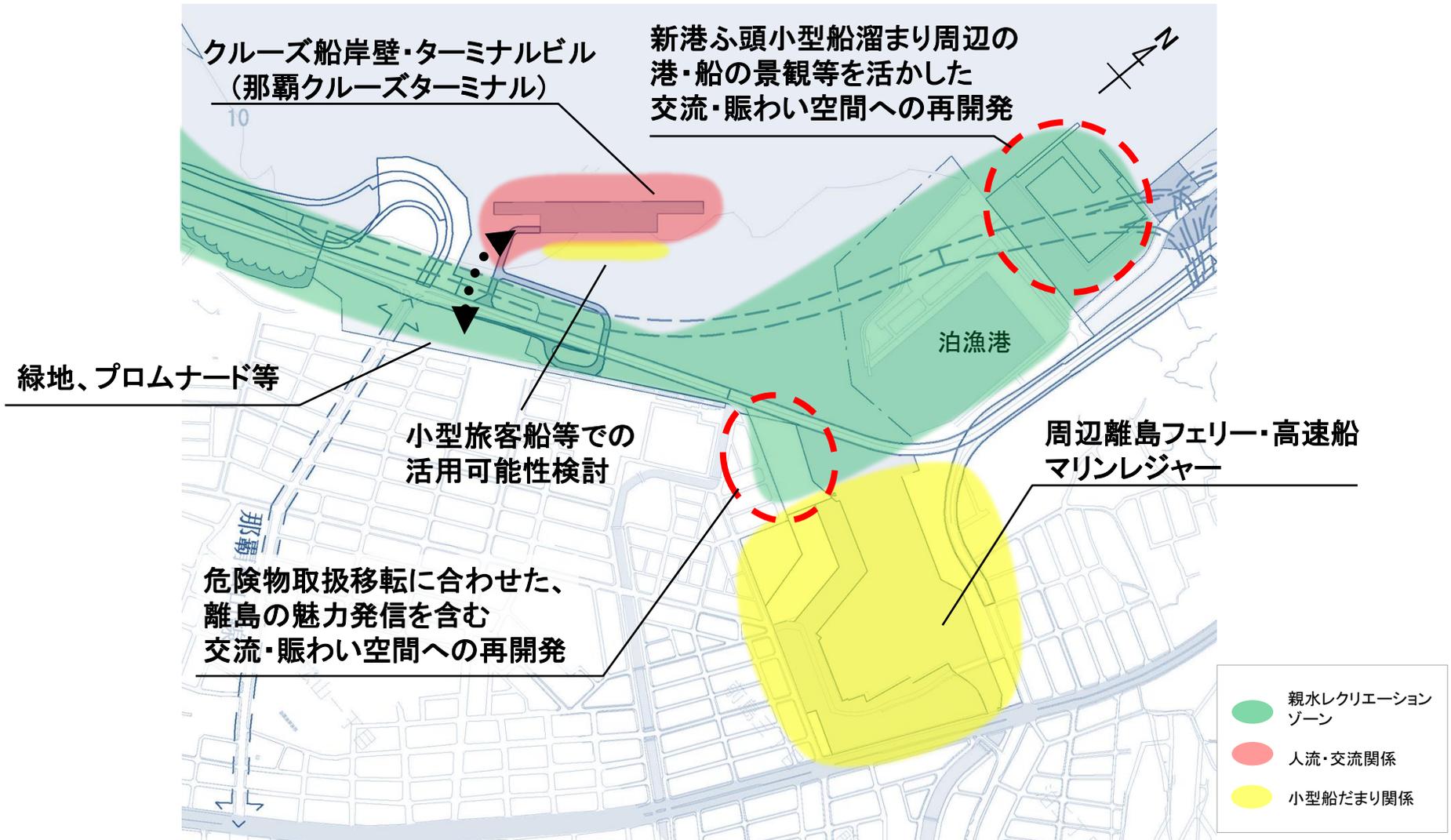
○ 施設配置イメージ (詳細)

■ 施設配置(那覇ふ頭地区)



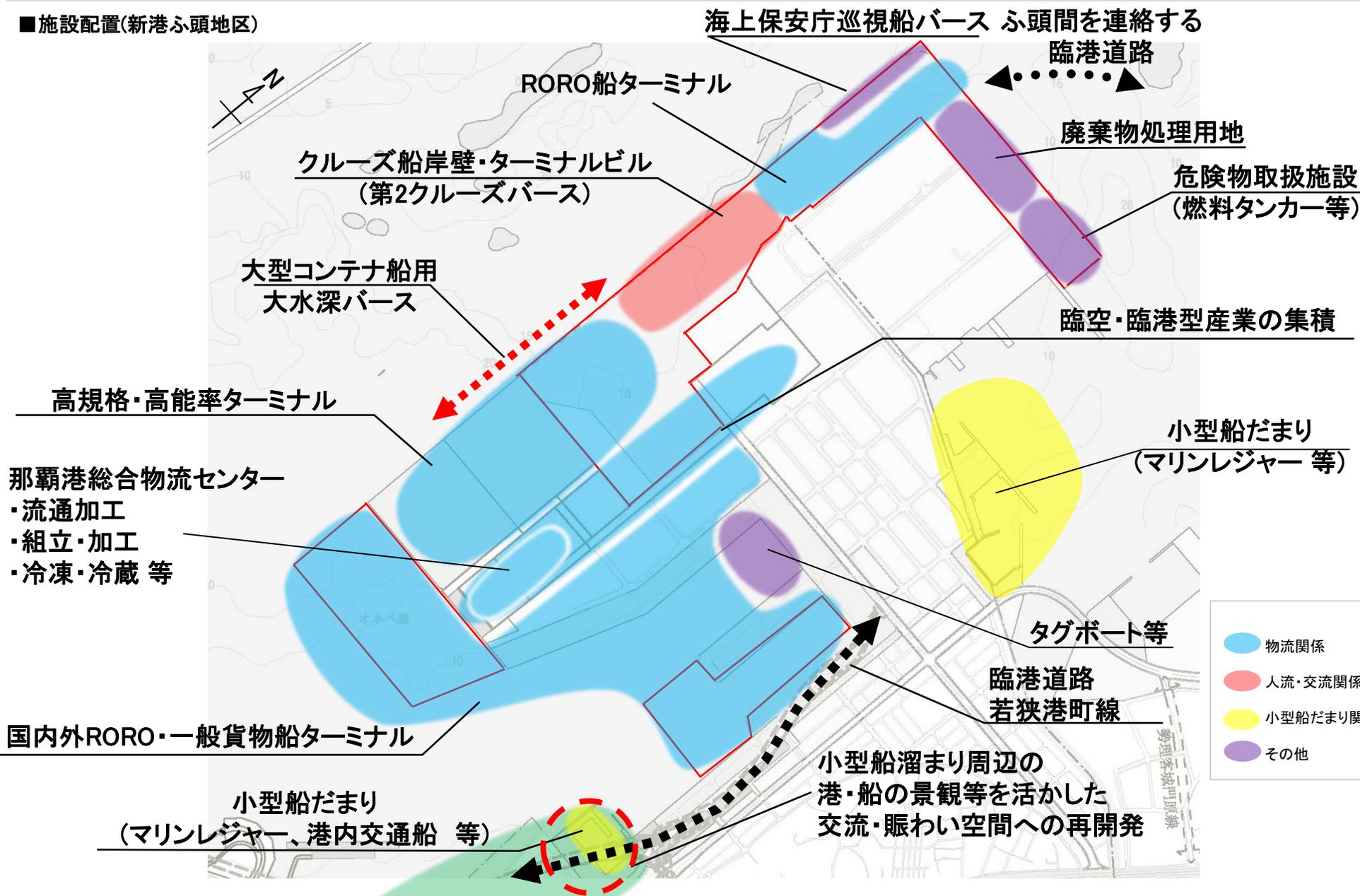
○ 施設配置イメージ（詳細）

■ 施設配置(泊ふ頭地区・新港ふ頭地区)



○ 施設配置イメージ（詳細）

■ 施設配置(新港ふ頭地区)



○ 施設配置イメージ（詳細）

■ 施設配置(浦添ふ頭地区)

